

2018.12.3(月) 第5回学び合いの授業づくり 研究授業!!

1年 国語科 「漢文」 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す

○本校本年度第5回目の「学び合いの授業づくり」の取組

12月3日(月)に、本年度第5回目の「学び合いの授業づくり公開研究授業・公開研究協議会」として「学びの共同体スーパーバイザー」の馬場宏明先生に来校いただき、本校の学び合いの姿を見ていただきました。

研究授業では、1年生の国語「漢文」の授業を本校の酒井優斗先生に提案していただき、本校教員と市教委指導主事の参観、その後の研究協議会を実施しました。

グループ学習の約束

- まずは独(ひと)りで考えよう
- わからなかったら訊(き)こう
- 訊(き)かれたら応(こた)えてね
- 訊(き)かれるまでは教えない



酒井先生の授業では、故事成語の「漢文」を書き下し文にしていく授業でした。中学生になって初めてで合う「漢文」。共有の課題では「以心伝心」、「借虎威狐」といった短い漢文を書き下し文に直す作業。ジャンプの課題では「蛇足」の長い長い訓読文を書き下し文に直す作業に取り組みました。誰もが自力で解決できそうと感じたのか、どの子もあきらめず最後までこの作業に取り組む「学び」の姿を見ることができました。以下が、馬場宏明先生の講評の抜粋です。

- ・この学校では、「学び合いのルール(グループ学習の約束)」が確実に浸透してきている。
- ・授業がはじまり、グループができあがるまで8秒。
- ・プリント配布(共有の課題)。グループになったときに誰もが黙って、授業に集中している空気ができあがっている(まずは独りで考えよう)。
- ・今日の課題(漢字を並び替える作業)は、やれば何とかできそうな課題で、子供たちにとって面白みのある課題であった。
- ・「わからなかったら訊こう」であるが、訊かない。独力でやりたい気持ちがあるからだ。
- ・いつも教えてもらっている子は「待つ子」になっている。いつも教えている子は、教えたくて仕方ないのに、グループ学習の約束があるから教えないでがまんしている。
- ・「教える」ということは、相手の「わからなさ感」がわからないと教えることができない。
- ・相手が「何をわかっていないのか」わからないまま一方的に教えるのは「おせっかい」。
- ・普段から「わからなかったら訊こうね」「教えてと言おうね」と授業の中で伝えることだ大事。
- ・子供たちの板書する力がすごい。



発表する。説明させる工夫。



「まずは独りで考えよう」



自力解決。書き切る。



「訊かれるまでは教えない」



「訊かれたら応えてね」



「蛇足」の意味を生徒の言葉で説明する。



教員相互の学び合い 各グループの発表



- どこで学び合いが成立したか
- どこに学び合いがつまづいたか
- どこに学び合いの可能性があったか